

## 事例 9



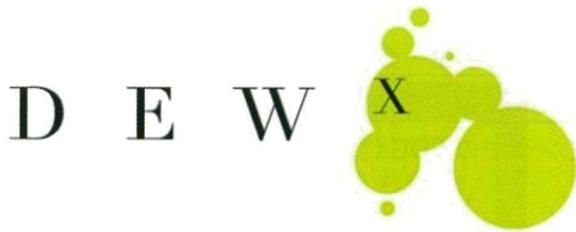
SDGs は『共通言語』！

～滋賀からはじめる SDGs の輪～

### 1. 「水処理技術を柱とした環境分野への事業展開を行う」大洋産業株式会社

大洋産業株式会社は、プラント配管工事をはじめ、水処理装置や産業用機械の設計、開発、製造、組み立てなどをオーダー生産型で手掛けるものづくり企業です。滋賀県彦根市にある本社の他、大津営業所、甲良工場の2つの拠点があり、さらにベトナムにも拠点を持ち、現地生産ならではのローコスト、高品質の製品供給を水処理装置中心に行っているほか、日本企業向けのベトナム語通訳・翻訳業務をはじめ、現地委託先調査、現地視察コーディネーター等も行っています。

同社は中小企業大学校関西校のサテライト・ゼミ with 長浜ビジネスサポート協議会に社員を派遣するなど人材育成にも熱心な企業です。



大洋産業株式会社のロゴマーク  
同社のロゴマークは滴（しずく）が合わさった形となっています。  
この「一滴」をいろいろなことと掛け合わせることで発展したい、という意味をこめ「一滴=DEW」と「掛け合わせる・未知数（転じて”未来”）=x」を組み合わせ、「DEW の x 乗=成長し続ける」という思いが込められています。

### 2. SDGsとの出会い～取り組み

同社は2019年9月にSDGs宣言をしました。「SDGs」という言葉は2020年頃から新聞やテレビ等でよく見聞きするようになりましたが、中小企業でそれより前からSDGsについて考え、宣言までしていた企業はそう多くはありません。どういった経緯でSDGsに出会い、宣言するに至ったのか—3代目代表取締役である小田柿社長にお聞きしました。

#### (1) SDGsを知ったきっかけ

水処理装置を手掛け、アジアにも事業展開している同社は、関西企業の環境・省エネビジネスのアジア展開を支援するとともに、環境を軸とした関西とアジアの関係強化を図ることを目的として設立された「関西・アジア 環境・省エネビジネス交流推進フォーラ

ム（Team E-Kansai）」の正会員でもあります。その Team E-Kansai が経済発展と環境保全の両立を目指し省エネや環境対策を積極的に進める一環で行っている SDGs に関するセミナーや啓蒙活動に参加する中で、社長自身も「SDGs」に出会い、理解を深めるとともに取り組みの必要性を強く感じたとのことです。

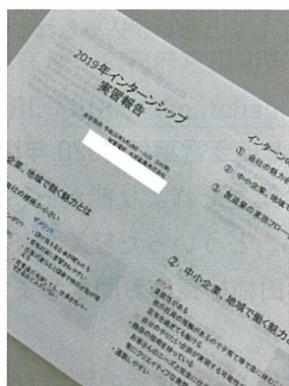
## （2）SDGs にどのように取り組むか—SDGs に関心を持つインターンシップ生の活躍

それでは、同社はどのように SDGs への取り組みを進めていったのでしょうか。

同社は、ほぼ毎年近隣の大学よりインターンシップ生を受け入れています。そのプログラムも、単に工場の作業を手伝ってもらうのではなく、例えば、“現在の同社リソースを使って、どんな新規事業が考えられるのか、社長や従業員へのヒアリングを通じて考え、最終日に発表してもらう”というような実践的なテーマにしています。こうした内容にしている理由は、インターンシップ生は将来どのような企業に就職したとしても役に立つ経験を得ることができ、また、同社としても従業員がインターンシップ生からヒアリングを受けることで、自社の業務や将来像について考えてみるきっかけにもつながる、両者にメリットがあるプログラムになるよう意識しているからということです。これは SDGs の目標 4 「質の高い教育をみんなに」への貢献につながっており、同社が SDGs を意識しながら事業を行っている姿を垣間見ることができます。

前出のように社長が SDGs への取り組みの必要性は感じているものの、なかなか時間もなく、具体的な取り組みを検討できないと思い悩んでいたところ、2019 年にインターンシップで受け入れた女子学生が SDGs について興味を持っていましたことから、彼女に同社の SDGs への取り組みを考えることをプログラムのテーマとして取り組んでもらい、まとめられたものを土台に社内で見直し、具体的な事業に落とし込んで同社の SDGs 宣言として仕上げたそうです。

小田柿社長がインターンシップの取り組みを学生・企業の両者にメリットがあるものにしようと考えていたこと、さらには SDGs に関するアンテナを高く持っていたからこそ、このように 2019 年という早いタイミングでの SDGs 宣言につながったと言えます。



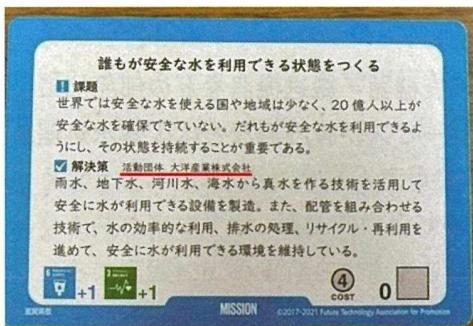
インターンシップ生が社内発表で用いた資料

SDGs に関する内容はもちろん、同社の魅力や中小企業や地域で働く魅力、製造業の業務フローがインタビューの内容をもとにまとめられており、インターンシップ生の学びも非常に大きかったものと推察されます。

### 3. SDGsへの貢献の内容と取り組みの中で感じたこと

同社のSDGsへの取り組みは、大きく3つに分けることができます。①自社商品に関するもの、②福利厚生に関するもの、③採用に関するものです。①については、同社は水処理装置の製造を行っており、さらには海外にも展開していることから、水浄化技術を通じて開発途上国の生産性を上げ、安心安全な水の供給に寄与しています。これらはSDGsの目標12「つくる責任つかう責任」および目標1「貧困をなくそう」や目標3「すべての人に健康と福祉を」、さらには目標6「安全な水とトイレを世界中に」などにつながります。また②について、同社は従前から社員が働きやすい環境を作ろうと働き方改革の取り組みを進めていましたが、SDGs宣言を行ったことで今まで以上を目指していくこととなり、健康経営優良法人2021の認定に至っています。こういった点も、目標8「働きがいも経済成長も」ならではのものと言えます。③については、日本における女性従業員の積極採用のみならず、ベトナムでも現地女性の採用や生活支援・指導などを通じて、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」や目標10「人や国の不平等をなくそう」へ貢献しているところです。

上記の通り、数多くのSDGsの目標に取り組んでいる大洋産業ですが、SDGsについて考える際、「①から③のすべてで、既に自社で力を入れている部分についてSDGsという枠組みの中で整理しなおした」とのことです。「全く新しいことをSDGsで謳い、それを1から取り組んでいくとなると大変な労力が必要で、社員もついてきてくれないかもしれない。そうではなく、いま取り組んでいること、さらにブラッシュアップしていきたいことについてSDGsへ貢献している取り組みを見つけ、SDGs宣言を行うことにしたからこそ実行もできた。どこの企業でも何かしらSDGsに取り組んでいるはずであり、まずは自社が取り組んでいることをまとめ、それを宣言することから始めればいいのではないか。」と小田柿社長は言います。



#### SDGsボードゲーム

滋賀県版のSDGsボードゲームに取り上げられています。県内の高校や会社の研修会で活用されているとのことです。

### 4. SDGsへの取り組みをしたことのメリット

現時点でのSDGsを取り組んでることによる経営上の直接的なメリット一例えば新たな取引等につながったというようなことはないとのことですが、社内に目を向けてみると、大きな利点があったといいます。それは、将来企業として目指していく姿、ビジョンを従業員に示す際、SDGsの17の目標や169のターゲットと照らし合わせることで、非常に明快

になる、理解させやすくなる、ということです。その理由として SDGs は世界共通の普遍的な目標・価値観で、いわば「共通言語である」ということを挙げられています。

自社の経営理念やビジョンを従業員に浸透させることに苦労する中小企業が多い中、このメリットは非常に大きいのではないかでしょうか。

小田柿社長はまた、SDGs の目標 17 「パートナーシップで目標を達成しよう」とある通り、少しでも多くの人に SDGs について知ってもらい、取り組んでもらうきっかけを作っていく活動を今後も続けていくとお話ししされており、当機構も応援していきたいと思います。



大洋産業㈱ 小田柿 喜暢 社長



同社で設計・開発を行う水処理装置



OJT を通じベトナム人に技術を伝えている

## 5. 会社概要

- (1) 企業名：大洋産業株式会社
- (2) 代表者：小田柿 喜暢
- (3) 創業年月：1951 年 2 月
- (4) 事業概要：配管工事、鋼構造物工事業、検査機器・搬送機器などの部品加工・組み立て・据付や調整などのサービス、膜ろ過などによる水処理装置
- (5) 資本金：2.5 百万円
- (6) 従業員数：37 名（2021 年 12 月末時点）
- (7) 所在地：滋賀県彦根市芹川町 528
- (8) URL：<https://www.taiyosangyo.co.jp>

構成／荒井 雄仁  
(令和 4 年 3 月時点)